

## コロナ禍の課題をICTの導入で改善へ

社会福祉法人 天水福祉事業会

多機能型事業所くるり（児童発達支援・放課後等デイサービス）

### 課題

#### 新型コロナウイルスの感染拡大

○会議や研修がリモートで行われるようになったが、集中して参加できる環境が整っていない。

○利用者様の健康状態や利用のキャンセル状況等の詳細な記録を当日に終わることができていない。



### ICT機器 導入

パソコン  
タブレット  
業務支援ソフト

### 成果

#### ①業務の質の向上

○自立支援協議会等のリモート会議の内容を個別支援計画の充実に生かす。  
○記録時間の短縮によって支援プログラムの準備が入念にできる。

#### ②量的な効果

○リモート会議に集中して参加できるようになり、参加する回数も増える。  
○業務支援ソフトが入ったPCが増えたことで記録時間を短縮でき、当日に記録を終えることができる。



## 業務効率化のステップ

### ①導入前の背景や検討状況

- ・ 新型コロナ感染拡大を防止するため会議や研修がリモートで行われようになった。
- ・ 新型コロナ感染に関する健康状態や利用のキャンセル状況等の記録が増えた。

### ②導入内容（詳細）デスクトップパソコン1式、WEBカメラ1台、ヘッドセット1台、ポータブルパーソナルスピーカーフォン1台、タブレット1台、業務支援ソフト1式

### ③導入における問題点の洗い出し

- ・ 事務室のPCではリモート会議等は音声のみのやり取りである。事務室は人の出入りがあり集中できない。
- ・ 記録する内容は増え、入力が支援業務終了後の時間に集中するため、当日中に終わらない。

### ④問題点の改善

- ・ リモート会議等へ集中して参加できる環境整備 → WEBカメラ、ヘッドセット、スピーカー、タブレットの活用

## 職員の声など

### 【良かった点】

- ・ タブレットは持ち運びができるので、リモート会議や研修では個室で使用し、集中した環境で取り組むことができた。
- ・ 以前は当日に記録できない時は内容を忘れないように手書きで記録を残していたが、ほぼ当日に入力を終わらせるようになり記録の負担が少なくなった。
- ・ 看護記録等も業務支援ソフトで作成できるようになり、情報を共有しやすくなった。
- ・ タブレットや支援ソフトの使い方等を教え合うことで、職員間のコミュニケーションが増えた。

### 【今後の課題】

- ・ ICTの運用で使いこなせていない部分もまだ多くあると思う。支援の充実と業務の効率化が図られるようにしたい。
- ・ 利用者様の通う特別支援学校でICT教育に取り組まれているので、連携して支援の充実に生かしていきたい。

